

---

1998年に代替医療の特集(Vol.279-280)を組みました。

1998年度にアメリカ医師会が最も力を入れて取り上げたいトピックのひとつに代替医療が入ったのです。

JAMAの特集で最も関心を引いたのはJAMA Patient Pageでした。これはJAMAとAMAの公共サービスのためのページであり、医師たちが自分の患者にコピーして配ってもらうために作成されているものです。題名は”alternative choices: what it means to use nonconventional medical therapy”で、まず前に述べた Eisenberg らの調査結果が簡略に記載され、代替医療の安全性・効果・質・費用などについての注意事項とともに医者にも必ず相談するよう勧めています。また、そのなかで医師は通常の医学はもちろん、患者が利用しているいかなる代替医療についても熟知しておく必要があると記載しています。このページに記載されている代替医療としてはハーブ療法、鍼、アロマセラピー、カイロプラクティック、家庭医学などが挙げられていました。

アメリカ臨床がん学会で代替医療のシンポジウムを開催

代替医療はアメリカのがん学会でも大きく取り上げられつつあります。ASCO (American Society of Clinical Oncology) の第 35 回 Annual Meeting がアトランタで開催されましたが、その satellite symposium に「Alternative and Complementary Therapies and Oncologic Care」と題して ASCO と American Cancer Society の joint symposium が開かれました。内容は総論的なものが多かったのですが、現代西洋医学と代替医学が接した意義は大きいと思います。

代替医療に保険給付

アメリカでは中間階級以上は私的保険に入っています。公的保険としては 65 歳以上の人びとと身体障害を持つ特定の者に与えられる「メディケア」(Medicare)と老人・盲人・障害児を持った成人、妊婦を含む低所得者に対し連邦と州が協力して行う「メディケイド」(Medicaid)とがありますが、なんらかの理由で医療費の給付を受けられない人が 6000 万人程度いると言います。アメリカ政府はこれら公共健康保険財源の枯渇を懸念して、「民間の健康保険へ移行する」よう呼びかけているとのこと。これが大きな社会的な動きになって、全米の健康保険組合が代替医療を給付対象にし始めています。給付の中心になっているのは、カイロプラクティックと鍼灸治療です。

「『適切な代替医療』 鈴木信孝編著 日本医療情報出版」より